

日本太鼓ジュニアコンクール九州各県大会審査要領

(目的)

第1条 全九州太鼓連合に加盟する各県連の主催する日本太鼓ジュニアコンクール県大会は、日本太鼓の普及と振興を目的として行われる。出場者にとっては、日ごろの精進の成果を発表し、日本太鼓に親しむ相互の競演、研鑽の場である。その運営は公正であり、審査は厳正でなければならない。そのためには、審査そのものが出場者(団体)に対して一定の基準に基づいて行わなければならない。しかも、その基準は日本太鼓の本質を踏まえた共通普遍的な原則に基づくものでなければならない。そのため、この審査要領を定め、その基準を設ける。

審査委員を務める者は、この基準を正確に理解し、実施にあたってはこれを正しく運用しなければならない。

(審査委員)

第2条 審査委員は、全九州太鼓連合から派遣する審査委員4名と地元より選出する学識経験者1名の合計5名によるものとする。ただし、各県において十分協議した結果、地元から学識経験者を選出しない場合は、全九州太鼓連合より合計5名を派遣することができる。

2 審査委員は、公益財団法人日本太鼓財団の公認指導員の資格を持つ者でなければならない。

3 審査を初めて行う者は、当該大会日以前に最低2回以上の模擬審査を行ってからでないとい審査を行うことはできない。

(審査方法)

第3条 審査方法は、次のとおりとする。

- 1 審査は、審査委員により行う。
- 2 審査委員は、原則として5名とする。
- 3 審査委員は、全九州審査委員審議委員会が公認審査委員名簿搭載者の中より4名、音楽家または音楽学識経験者(もしくはそれと同等の知識を有する者)の中より1名を選任し、全九州太鼓連合会長が委嘱する。
- 4 審査委員はあらかじめ会議を持ち、審査方法及び審査基準等の打合わせを行う。
- 5 審査委員は、本会の定める採点表(別表1)に従い各項目を採点する。

(審査基準)

第4条 審査基準は、次のとおりとする。

- 1 自由曲は4分以内とし、音の出始めから終わりまでとする。なお、演奏時間を超過した場合は失格とする。
- 2 規定時間4分の正確を期するため、タイムキーパーを2名置き、誤差のある場合は2名の間時を採用する。
- 3 台詞、歌、伴奏の楽器による演奏は演奏時間に入るものとする。
- 4 演奏は、伴奏を含めて生演奏とし、洋楽器・電子楽器等の使用は認めない。
- 5 審査の採点は、審査員1名につき100点満点とし、その合計得点とする。
- 6 審査項目は、次の5通りとする。

(1) 礼節・衣装

しっかりした挨拶、身のこなし、太鼓に向かう毅然とした態度か、また、太鼓演奏にふさわしく、衣装が子供らしいかをポイントにする。

(2) 構え・打法

腰を落とした安定ある姿勢、体全体で打ち込んでいるか、また、バチさばきと振り、正確な打法、太鼓本来の音が出ているかをポイントにする。

(3) 演奏技術

演奏技術が身についているか、その技術レベルが高いかをポイントにする。

(4) 音楽表現

曲想に合った演奏(強弱・速度等)とのバランス及び、笛、鉦等との調和がとれているかをポイントにする。

(5) チームワーク

チーム全体が意気のあった演奏をしているかをポイントにする。

7 演奏に係る楽器等は次のとおりとする。

- ①使用可能な楽器は和太鼓を主とした邦楽器とする
- ②伴奏の楽器として、・チャップ・鉦(チャンチキ)・鉄筒、竹筒・銅鑼・神楽鈴、おりん・篠笛(横笛)、尺八、ほら貝、口琴(ムックリ)・三味線、琴、大正琴等は使用可能とする
- ③演奏に伴う伝統的な演出(例：幟等の設置)は可とする
- ④上記以外の伴奏楽器は使用不可とする
- ⑤音響機器、マイク、電子機器、音源使用は不可とする
- ⑥演奏に係らない過剰な演出(例：紙吹雪、スモーク等)は不可とする
- ⑦不可とされる項目を演奏に使用した場合は、失格とする